SF 短編小説「ATM に預けられたヒトの話」

著者：宮本道人

2023 年 8 月、NEC とセブン銀行は「SF 思考」や「SF プロトタイピング」と呼ばれる「SF」を通して未来の金融を考えるワークショップを実施しました。
ワークショップで作りだした未来のストーリーをもとに SF 作家の宮本道人氏が SF 短編小説を執筆するとともに、NEC は生成 AI「NEC が開発した LLM（Large Language Model: 大規模言語モデル）」を活用した SF 短編小説を制作しました。

NEC 開発の LLM を活用して執筆した SF 小説「メモリー・アンド・コミュニケーション」はこちら

本イベントの様子を紹介したレポート記事も公開しています。
https://wisdom.nec.com/ja/feature/digitalfinance/2023121801/index.html

1.すべてをポン！

キミはあの広告を見たことがあるかな？
「あなたのすべてをここにポンして！」
もう 2 年前になるかな、あれはなかなか衝撃的な CM だったよね。例の動物みたいな ATM が街の至るところを闊歩していて、「ATM にポン！」の掛け声でみんながそこにいろんなものを預けるってやつ。
まぁこうも見事に社会が変わったのを見ると、AllTM（オールティーエム）の先見の明にはホレボレするよ。

……え？　AllTM をそもそもご存知ない？ 「すべて」を預けられる ATM、って意味で「All」と冠された ATM。
そうか、私の留学先だけでしか、まだああいう製品は出ていないのか。キミが住んでいた場所がどこかは知らないけど、この噂が届いてない地域が地球上に存在するなんて、意外の極みって感じだ。
うん、そうだな、このターミナルを出るまで時間があってヒマだし、AllTM が私の街にどう流行していったか紹介してあげようか？　どうだろう？

\Orchestrating a brighter world NEC

2.生体情報をポン！

そうそう、それが最初に自らを「ATM」だって主張した時は、みんなが首を傾げた。
だってさ、切った髪や爪を預けてって迫ってくるんだから、そりゃ ATM じゃなくて妖怪の類だって思うよね、あはは。
……どんなものだったか、もう少しちゃんと説明しようか。

AllTM は、最初は美容室やネイルサロンに設置されたんだ。そういう場所ってさ、利用者から「爪」「髪」みたいな、身体のパーツの一部が排出されるだろう？　ユーザーがそれを AllTM に「預ける」ことを選択すると、それが回収されるんだ。で、たとえば髪はウィッグに利用したい人に使ってもらえるようになるし、再利用される。もちろん、実際にすべてが保存されて転用されるわけではなくて、あくまで使えるものは使う、くらいのリサイクル率だ。ユーザーはいつでも欲しいときにそれを「引き出す」こともできる。つまり数年後、自分が「髪」をほしいと考えたときに、手に入れることができるんだ。
そのうちに、病院や歯医者なども医療機械の一つとして AllTM を導入するようになった。手術や治療で身体の一部を切り取ったりするじゃない？　あれを同じように「預ける」ことができるっていうんだから、当時の患者はみんなビックリしていたよ。

なんでそれがビジネスとして成立するかって言うと、それはもう、ユーザーからゲノムやエピゲノムの情報、健康情報などを提供してもらえるから、っていうその点が大きかった。これはもちろんユーザーにも得があってさ、提供した情報をもとにしたリコメンドサービスを利用することもできたんだ。たとえば健康状態に応じた食事の仕方をアドバイスしてくれたり、どんな健康器具をどう買えばいいか教えてくれたり、ね。
装置のありがたみを世間が認識し始めた頃、もう街はこの装置で溢れかえっていた。ものを「ポンする」場所って、意外と色んなところにある。そこにあるのは、スゴい個人情報のカタマリだ。個人情報を取得されたくない人は、この装置を避けるだけで良いし、大きな問題は思ったよりも少なかったよ。

かくいう私は、恥ずかしながら、これを使ってパートナー探しを始めた。街中にある AllTM が、私のアドバイザーになってくれた。
「どこそこの AllTM を使っている誰々さん、あなたと合うんじゃない？　あの曲がり角の AllTM の前で待ち合わせできるよう、相談を持ちかけてみるよ」
みたいな感じだね。
……うまくいったか、って？　そりゃあ、もう。今のパートナー、A と出逢ったのは、このときだ。
そうそう、今日も一緒にここに来てるんだ。A は充電スポットを求めてターミナル周りを探索しにいったんだけど、そろそろ帰ってくると思うから、できたら後で紹介するよ。

\Orchestrating a brighter world NEC

3.持ち物をポン！

だいたいわかってきたかな、AllTM の「ヤバさ」！
はてさて、AllTM 業界もしばらくは大きな話題がなかったんだけど、次にこのヤバさに目をつけたのが、まさかのエンタメ業界の人たちだった。そう、ものを組み合わせて AllTM にくっつけて戦わせる「AllTM バトル」の登場だ！
いやー、あれには熱狂したよ。当時は誰もかれも、小さい自分用の AllTM を持ち歩いててさ、家にあるものとかバッグの中のものとかがそれに自動で組み合わさってね、動物とか乗り物とか、色んなモチーフのロボットに変形するんだよ。

で、戦うって言っても、壊し合うって感じじゃなくて。サッカーみたいにお互いボールを蹴ってゴールを狙ったり、賞味期限の近い食材を集めて料理対決をしたり、あらゆるパターンの試合が開かれてるんだ。もちろんボクシングみたいな、ルールを決めた上で殴り合うようなゲームもあった。
街中の子どもたちが道ばたで遊んでて、歩いてると突然バトルを申し込まれたりもしたくらい。持ち物って、けっこう意識していないうちに、どうでもいい小物も持ち歩いちゃってたりするし、押し入れに謎のものが眠ってたりするじゃない？　そういうものも含めて、自分の所有物が反映されるってのがまた面白いポイントでね、職業ごとに違いが出たりするのも、大人がハマった原因の一つかもしれない。
そういえば、さっき話したパートナーの A は幼稚園で先生として働いててね、幼稚園に AllTM を持ってくる子どもが続出して先生方が大変だった、ってよくぼやいてた。子どもにやりたいことをやらせてあげたいけど、バトルで揉めちゃう子どももいたりして、子どもを「預けられた」身としては難しかったらしいんだ。そもそも当時の子供は「AllTM を買って！」ってみんな親にねだってて さ、生産が追いつかなくて大騒ぎ、みたいな社会問題になってたね。

……で、そんな騒ぎが一段落つくやいなや、次に人気が爆発したのが「AllTM ワールド」。見た目は巨大な ATM を模したテーマパークで、大量の奇妙な「預かりもの」が面白く展示されてるんだ。一個なにかを預けると、別のなにかを持ち帰れてね。フリーマーケットみたいなイメージに近いかな。AllTM バトル用のパーツを探すこともできるってわかった途端、子どもたちが押し寄せて、最初は毎日大混雑だった。
ここには A ともよく色んな「預けもの」を持って遊びにいったもんだ。やっぱりね、何を預けるかに、性格ってのは出るもんだよ。それだけでも面白かったねぇ。あとは、なにをもらうべきかでケンカしたりね、思い出は語り尽くせないくらい。
あそこの仕組みはスゴくて、マジでめっちゃ大量の人があらゆるものを預けてるから、巡り巡って自分が過去に預けたものと同じものを後で引き出せることも多いし、そうじゃなくても、預けるときに 3D スキャンしてもらえるので、ほとんど同じものを複製することもできるんだ。

ちなみに、AllTM ワールドの目玉は、スタジアムやアリーナがいくつもあって、AllTM バトルの各種大会が開かれてるってところ。ふだん小さなコートでしかできない遊びが、ここではデカいコートでできて、観戦環境も整ってるんだ。
プロリーグもあるし、誰でも出場できるアマチュア大会コーナーもあったってのが、話題を呼んだ一番のポイントだね。私も A と一緒に AllTM を育ててたから、その AllTM で出場したよ。
っていうのも、当時は優勝賞品がほしくてほしくて。今からだいたい 20 年くらい前に大活躍していた過去の ATM が賞品になってたんだよ！　ほしいよね？

……え？　そんな大きなもの一体どこに置くのか、なんでそんなものがほしいのかって？　いや、ほしいでしょ！貴重な歴史的資料だよ！
まぁ、私がマニアなのは認めるよ。実は私、ただ ATM が好きなだけじゃなくて、職業としても ATM の歴史を調べてて。世界中で毎年色んなタイプの挑戦的 ATM が作られて、時代に応じて機能が移り変わったりしていくのが最高に面白いと思ってるタイプの人間なんだ。
……おいおい、そんなわざとらしく感心しなくていいよ。でも、賞品になってた ATM の種類を聞いたら、キミもビックリすると思うよ。例えば、そうだなぁ、力がないと開かない筋トレ ATM、子供の砂場のお城 ATM、ボコボコに殴るとお金が出てくるサンドバッグ型 ATM とか。
ね、ほしくなってきたでしょ！
まぁ、大会は負けばっかりで、ぜんぜんレア ATM は手に入らなかったんだけどね。私の街では、こんな意味不明なジョークが流行ってたよ。
「金があっても ATM は買えない」ってね……

\Orchestrating a brighter world NEC

4.記憶をポン！

そんなわけで AllTM バトルが普及して、みんな自分の AllTM を持つようになったんだけど、だんだん AllTM の機能も増えていって、いつの間にかペットみたいな感覚で連れ歩く人が増えたんだよね。
ウチでも、私と A と AllTM の 3 体で共同生活してるって感じになっていった。家族みたいなもんだよ。
あ、〇体って数え方、変？　いや、なんかさ、〇人とか〇台とか数えちゃうと、なんか ATM と人間を分けることになって嫌じゃない？

まぁそんなことはどうでもよくて、なんで単なるオモチャが家族の一員ポジションに入り込むことになったかっていうと、「記録」の機能がキモだった。AllTM は見たもの聞いたものすべてを記録してくれるんだ。だから、同じ時間を共有してる、かけがえのない存在になっていってね。
だけどね、「ヤバさ」はこれだけじゃない。何がヤバいってさ、その記録、AllTM が VR で丁寧に再現してくれるんだよ。
ウチの AllTM は口に VR 装置を実装してるんだけど、なんか思い出したいとき、私はそこに頭を差し出すわけ。そうすると、がぶり、と AllTM が噛み付いてくれる。口の中は VR ゴーグルのようになってて、そこで記録を再体験できるんだ。
こうなると、自分と AllTM の境界が薄れるというかね。どこまでが自分か、ってのも曖昧な感覚になってくる。そもそも、自分の記憶をポンして、引き出して、ってやってると、自分の記憶と AllTM の記録が入り混じって、区別できなくなってくるんだ。

……ん？　どういう意味かって？
いやね、AllTM をどこに行くにも連れてく生活になるじゃない？　で、あらゆることを記録してくれてるってわかってると、自分では色々なことを記憶しなくていいって思うんだよ。A と旅行に行ったときもさ、いちいち写真を撮ったり、日記をつけたり、そういうことをしなくなったんだ。記憶をポンしてるって感覚。
ホントはね、AllTM の記録は、私の目線からの記憶とは違うから別物なんだけど、自分がテキトーにしか記憶してないことを完璧に記録してて、何度も体験させてくれるってなると、もはや AllTM は私の脳の一部、みたいな身体性になってくるわけ。
もちろん、今日も一緒だよ。いまは充電スポットまで A が連れてってくれてるんだけど。

……は？　もし A と別れることになったら AllTM をどうするか、って？　キミ、初対面なのにずいぶん失礼な質問をするねぇ！　すげぇ距離の縮め方！
いや、まぁね、正直言うと、実際そういうのに近いことはあった。A と 1 回ケンカして別居したときがあって、AllTM とどっちが住むか、揉めたんだよね。私たちの過ごした時間が詰まってるってなると、こりゃもうどっちも折れないよ。1 週間ずつ交代で面倒を見ることにしたんだけど、受け渡しのとき毎回険悪だったね。
もちろん、同じ AllTM をもう 1 つ作って、記憶も複製して、みたいなことはできるんだけど、やっぱり「この個体と一緒に暮らした」みたいな感覚があるからさ。
このときはケンカでイライラしてて、別れることすら考えてたから、もはや記憶を全部忘れさせたい、みたいな気持ちすら、ちょっとあった。だって仮に、私が別のパートナーを見つけたときに、元パートナーの記憶が AllTM にあったら、相手にどう思われるかって問題もあるじゃない？

実はね、このときは、2 人で「AllTM の記憶を預ける AllTM」のサービスを使ったよ。2 人が一緒にいるときの記録だけをいったん別の AllTM に預けてさ、引き出すまで忘れてる状態になるっていう。結局のところ 1 ヶ月くらいで仲直りしたから、ぜんぶすぐ元通りにしたんだけど、今もあの選択が正しかったのかはよくわからない。AllTM に悪かったなぁ、みたいな後悔が大きいな。私と A の記録でもあるけど、AllTM の記憶でもあるから。自分と異なる存在の記憶を勝手にポンしていいのか、というと、それは間違ってるよなぁと思ってさ。
色んなものが預けられる世界になって初めて、預けることの「重み」を知ったんだ。

\Orchestrating a brighter world NEC

5.人をポン！

あ、A からビデオ通話だ！
……おぅい、どこまで行っちゃってたの？　充電できた？　へぇ、充電スポット、今はそんなふうになってるんだ！
AllTM 用の工夫もあるなんて、時代も進んだねぇ！　そ、こっちはいまね、初めて会った海外からの旅行者の人とついつい話し込んじゃってさ！　ん？　ほ？　それどころじゃない？　出入口がこっちじゃなかった？　あんまり時間ない？　わぁ、マジか！　分かった！　すぐ移動する！　ありがとう！　ぜんぜん気づいてなかった！　うん、うん、急いで行く！　じゃあまた後でねー！

……ふぅ、いやいや、話の途中で通話に出ちゃってすみませんね。しかもそろそろ、行かなきゃいけないみたい。
ん？　あれ？　なんでビックリしてるんだい？　なんかビデオ通話に変なものでも映ってた？
あ、そうか！　もしかして私、A が ATM だって話してなかった？　あぁ、ごめんごめん、そりゃ驚くよな。
A はいわゆる高度ヒト型自律 ATM でね、ちょっと機械っぽいときもあるけど、心はほとんど人間と変わらないよ。
じゃあ、A に呼ばれちゃったし、そろそろ私は行くよ、ごめんね。

どこに行くかって？
そりゃ ATM の中に、だよ。
半年前、ようやく博士号を AllTM 文化研究で取得できてさ、今度は別の ATM 内に研究員として派遣されることになったんだ。なんだかんだ、4 年は ATM 島の中で暮らしてたから、違う ATM に行けるのが楽しみで仕方ないってわけ。

……ん、なに？　ATM 島はニュースで見たことある？　おうおう、それそれ！
5 年前、自律型 ATM が無人島を一つ ATM 化して特区設立宣言したときはビックリしたけどね、ATM マニアだった私にとっては、またとない機会だったからさ。国費で文化交流を推進する留学支援みたいなプログラムに応募してみたら、うまいこと通ってね。で、ATM の文化を学ぶために「預けられた」人間が、私だったってわけ。
まさか、島がまるごと大きな ATM みたいな形になっていて、入るのにも出入金口みたいなところを通ることになるとは思わなかったけどね。いやぁ、ホント、良い経験だったよ。
でさ、今度派遣される別の国の ATM 特区では、AllTM とはまたぜんぜん違う ATM 文化が発展してるらしいんだよね。どんな ATM があるのか想像するだけで、ワクワクしない？　いつか、世界各地に誕生してる ATM 特区をぜんぶ回ってみたいなぁ。
お、ようやくキミも ATM に興味が出てきたみたいだね、嬉しい！　ATM の内側、ぜひキミも入ってみな。楽しいよ！

……じゃ、いつかどこかの ATM の夢で、また会おう。

（2023年12月 公開）

\Orchestrating a brighter world NEC

【著者 プロフィール】

宮本 道人（みやもと どうじん）
可能世界作家、応用虚構学者、奇想科学コンサルタント。

1989 年生。東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程修了。博士（理学）。
北海道大学 CoSTEP 特任助教、東京大学 VR センター客員研究員。
科学技術とフィクションを組み合わせてイノベーションを生む手法を研究。
三菱総合研究所、カインズ、リコーなど、企業の未来共創企画を多数監修。
吉本興業、NON STYLE 石田明と共同研究を行い、漫才 VR トレーニングシステムを開発。

NHK「おはよう日本」、NHK E テレ「又吉直樹のヘウレーカ！」、TBS ラジオ「パンサー向井の＃ふらっと」などに出演。
筑波大学 STEAM リーダーシッププログラム、灘中学校・高等学校土曜講座などで講義を行う。
著書に『古びた未来をどう壊す？』、編著に『SF 思考』『SF プロトタイピング』『プレイヤーはどこへ行くのか』など。
『SF 思考』は中国で翻訳出版され、原作担当漫画「Her Tastes」は国立台湾美術館で招待展示されるなど、国外評価も高い。